

発刊に当たって

川崎市は昭和47（1972）年に政令指定都市に移行し、区制が施行されて50周年、また、昭和57（1982）年の行政区再編により現在の7区制となって40周年を迎えました。昭和47（1972）年に約98万人だった人口は令和3年5月に154万人に達し、政令指定都市で6番目に大きな都市へと成長しました。

今年3月には、キングスカイフロントと羽田空港をつなぐ「多摩川スカイブリッジ」が開通し、川崎市が世界への玄関口となることが期待されています。

一方で、脱炭素化やデジタル化の世界的な潮流の加速、大規模自然災害の激甚化・頻発化など、本市を取り巻く環境は、急激なスピードで変化しており、社会課題や市民ニーズの更なる多様化・複雑化が見込まれます。

これらの環境変化や課題に的確に対応し、持続可能な市政運営を行っていくためには、統計情報を用いて状況を把握し、施策を検討していくことがますます重要となっています。

この「統計データブック」は、「川崎市統計書（令和3年版）」及び「大都市比較統計年表（令和2年）」などから、市民生活に関わりが深い統計情報を引用して体系的に整理し、グラフや解説を加えて分かりやすく編集しています。

本冊子を通して、多くの皆様に本市の現況について理解を深めていただければ幸いです。



令和4（2022）年11月
川崎市長 福田 紀彦

令和4年版 川崎市統計データブック 目次

I 政令指定都市川崎50年のあゆみ	1	35	主要駅の1日平均乗車人員	44
1 政令指定都市川崎の50年	2	36	ごみの処理状況	45
2 人口の推移	3	37	刑法犯認知件数	46
3 産業の推移	4	38	火災発生件数	47
4 児童・生徒数の推移	6	39	交通事故発生状況	48
5 住宅状況の推移	7	40	こども・学校 認可保育所の概況	49
6 自然動態の推移	8	41	小学校・中学校の概況	50
II 市勢データ	9	42	福祉・健康 生活保護の概況	51
1 人口	10	43	介護保険の概況	52
2 人口の推移	11	44	出生と死亡	53
3 区別人口	12	45	住居 着工新設住宅	54
4 人口の自然増減と社会増減	13	46	住宅の概況	55
5 年齢別人口	14	47	選挙 選挙	56
6 昼夜間人口	15	48	財政 市税収入額	57
7 労働力状態	16	49	市民意識 市民要望・評価と定住状況	58
8 外国人住民人口	17			
9 婚姻と離婚	18	III 大都市データ	59	
事業所（民営） 産業別事業所数及び従業者数	19	1 人口・世帯数及び面積	60	
区別事業所数及び従業者数	20	2 人口動態	61	
区別の産業別事業所数	21	3 年齢別人口	62	
区別の産業別従業者数	22	4 有業者	63	
従業者規模別の概況	23	5 事業所（民営）	64	
資本金階級別の概況（会社企業）	24	6 工業（従業者4人以上の事業所）	65	
農業 農業概況	25	7 商業	66	
区別の農業概況	26	8 貿易		
工業 工業概況	27	9 住宅		
区別の工業概況	28	10 消費者物価地域差指数		
産業別の工業概況	29	11 市（都）民経済計算		
従業者規模別の工業概況	30	12 治安及び災害		
商業 商業概況	31	「ちよっと一服」 市民の消費傾向		
卸売業の概況	32			
小売業の概況	33	IV 川崎市近隣市区データ	67	
百貨店・スーパーの概況	34	1 川崎市近隣市区地図	68	
貿易・経済 入港船舶	35	2 データ一覧	69	
海上出入貨物	36	V 基礎データ	71	
卸売市場	37	1 川崎市	72	
賃金・労働時間	38	2 川崎区	73	
有業者	39	3 幸区	73	
一般職業紹介状況	40	4 中原区	74	
経済活動別市内総生産（名目）	41	5 高津区	74	
水道	42	6 宮前区	75	
下水道	43	7 多摩区	75	
市バスの運輸状況	44	8 麻生区	76	

利用上の注意

端数処理の関係上、各数値の総数と内訳の合計が一致しない場合があります。
統計表中の符号の用法は次のとおりです。

「0」、「0.0」……単位未満

「—」……皆無又は定義上該当数字がないもの

「▲」……マイナス又は比較減を表す

「×」……該当数字はあるが発表を差し控えたもの

「…」……数字が得られないもの